世界の人びとのためのJICA基金活用事業・業務完了報告書

１．　業務の概要：	
(1)事業名	ラオスの少年少女たちのための交通安全教育ビデオの制作と上映
(2)実施団体名	NPO法人Treasures of The Planet
(3)実施期間	2017年5月1日から2018年1月31日まで
(4)実施国	ラオス人民民主共和国
(5)活動地域	ビエンチャン、ラオス

(6)活動概要

①活動の背景：

ラオスでは、毎年人口数は増加し死亡者数は減少してきているが、交通事故による死亡者数は増加している。これは、ラオス国内のインフラが進み、道路が舗装され自動車の数が増加しているのに、交通事故対策が進んでいないことを示している。NPO法人Treasures of The Planetは、過去2年にわたり、日没後外灯がない道でも交通事故にあわないようにラオスの国道13号線沿いにあるバンビエンのカムマック村の農民や子供たちに反射テープを配布し、交通安全に対する意識を高めるよう活動してきた。しかし、いくつかの町や村を視察した中で、交通安全教育が最も緊急に必要なのは、ラオス都市部であることが分かった。ビエンチャンのタクシー運転手はほぼ毎日交通事故現場に遭遇している。ラオスの交通ルールでは、バイクの運転は15歳以上からとなっているが、明らかに15歳以下の少年・少女たちが、2人乗りや携帯電話を使いながらバイクを運転している。日本が1960,70年代にかけて経験した悲痛な交通事故の悲劇を開発途上国の人々が繰り返さないために、ビエンチャンの少年少女たちに交通事故問題を認識させる教育ビデオやアプリを制作し、配布して行きたい。

②活動の目標：

以下の事項に寄与することを目標とする。
ラオスの交通ルールや、今まで先進国が行ってきた交通安全教育を参考にして交通安全教育用ビデオをラオス語で制作し、ラオスで最も交通事故が多発している都市のひとつであるラオスの首都ビエンチャンの学校で6歳から17歳の少年少女を対象にビデオ上映会を行う。
ビデオ上映直後、アンケート調査を行い、少年少女たちの認識度、意見を集めて分析し、今後ラオスの少年少女たちにわかりやすい交通安全教育ビデオ制作を作るための資料を作成する。

2. 業務実施結果:

(1)実施した内容

【実施内容①】
ラオスの少年少女たちのための交通安全教育ビデオ制作

1.2017年5－6月 ビデオの内容検討
今までラオス各地で見てきた交通状況、ラオスの人たちから聞いた交通状況、参考資料をもとにビデオに入れる項目を下記の4点に決める。

a.ヘルメット着用
b.携帯電話を使わない
c.シートベルト着用
d.飲酒運転防止

参考資料:
Road Safety Status in Lao PDR,2013 (Ministry of Public Works and Transport, Department of Transport)
Make Roads Safe (Commission for Global Road Safety)
Road traffic injuries in northern Laos : trends and risk factors of an underreported public health problem
Rates of motorcycle helmet use and reasons for non-use among adults and children in Luang Prabang, Lao People's Democratic Republic
An organizational analysis of road traffic crash prevention to explain the difficulties of a national program in a low income country

2.2017年6-7月 ビデオ撮影、イラスト発注

Lao National TVから、Lao National TVの映像をビデオで使用してもいいという許可を得るが、YouTubeで検索した結果、ビデオ制作に適した映像が少ないことがわかり、現地で役者を使って撮影することに変更。
2017年6月22日から7月5日までラオスに滞在し、ビエンチャンでビデオ撮影や、交通事故体験者のインタビューを行う。
サッカー少年が、交通ルールを守っていない人をホイッスルを鳴らしながら注意するシーンを現地の役者たちを使った撮影。帰国後、イラストレーター、ラジカル鈴木氏に撮影したビデオを送り、ビデオに挿入するイラストを制作してもらう。

3.2017年8－10月　ビエンチャン教育省にビデオ上映許可書を申請

ビエンチャンでビデオ撮影をしている間に、ラオスではビデオ上映許可書がないと公共の場所でビデオ上映ができないことがわかり、ビデオで俳優を務めた劇団員にたのんで、ビエンチャン教育省に4回通い上映許可書を入手してもらう。同時に、上映する学校も訪問し、上映許可と上映会場のチェックを行う。

4. 2017年8－10月
　アメリカ、ニューヨークのビデオ制作会社Compact Impactと、オンラインでコミュニケーションを取りながら、ビデオ編集作業を行う。10月に長崎大学大学院に入学したラオス人にシナリオのラオス語訳とナレーションを依頼し、ビデオを完成させる。

【実施内容②】
National Health Research Forum で活動内容を報告。

2017年10月24－25日、ビエンチャンで開催された第11回National Health Research Forumでラオスの少年少女たちのための交通安全教育ビデオを制作中という内容のポスターを提示し、NPOの活動内容を報告。

【実施内容③】
ビデオ上映とアンケート実施
2017年11月27日
14:00-15:00　Thaphalanxay Primary School
3-8歳の生徒27名の前で交通安全教育ビデオ上映を行い、その後司会者がビデオの内容を生徒たちに話し質問などを確認しながらアンケート調査を行う。

2017年11月28日
14:00-15:00　Vientiane Secondary School
9-12歳の生徒44名の前で交通安全教育ビデオ上映を行い、その後司会者がビデオの内容を生徒たちに話し質問などを確認しながらアンケート調査を行う。

15:00-16:00　Vientiane Upper Secondary School
13-16歳の生徒44名の前で交通安全教育ビデオ上映を行い、その後司会者がビデオの内容を生徒たちに話し質問などを確認しながらアンケート調査を行う。

（2）実施成果：

①アンケート結果

	3-8歳	9-12歳	13-16歳	Total
1.何で通学していますか？				
a.オートバイ	22	26	17	65
b.自動車	0	18	21	39
c.徒歩	5	0	6	11
2.バイクに乗るときにはヘルメットを着用しますか？				
a.着用する。	14	11	8	33
b.着用しない。	13	29	24	66
c.バイクには乗らない。	0	4	12	16
3.これからは、バイクに乗る時にはヘルメットを着用しますか？				
a.着用する。	27	40	36	103
b.着用しない。	1	3	1	5
c.わからない。	1	1	7	9
4.自動車に乗るときにはシートベルトを装着していますか？				
a.装着している。	22	13	18	53
b.装着していない。	5	28	23	56
c.わからない。	0	2	2	4
5.これからは、自動車に乗るときにはシートベルトを装着しますか？				
a.装着する.	27	40	39	106
b.装着しない。	0	4	1	5
c. わからない。	0	0	3	3
6.飲酒後自動車やバイクを運転しようとする人を見たら、あなたは止められますか？				
a.止める。	27	39	38	104
b.止めない。	0	2	1	3
c.わからない。	0	3	4	7

② アンケート結果の分析

1. 何で通学していますか？

全体の56.5%がバイク通学だとわかった。3－8歳は親のバイクに乗ると考えられるが12－16歳は、本人が運転している可能性もある。今回の上映会後先生に質問したところ、ラオスではバイクの運転は15歳以上からできるが、他に通学手段がない生徒は先生の許可を得て15歳未満でもバイク運転で通学していることがわかった。
次回、アンケートする場合には、年齢層によってバイクの乗り方を詳しく調べたい。

2. バイクに乗る時にはヘルメットを着用しますか？
3. これからは、バイクに乗るときにはヘルメットを着用しますか？

今までは、33.33%がヘルメットを着用していなかったが、これからは 89.5%がヘルメットを着用すると回答した。ビデオ上映により、ヘルメット着用の重要性を理解してもらえた。

4. 自動車に乗るときにはを装着していますか。
5. これからは自動車に乗るときにはシートベルトを装着しますか？

今までは46%が、シートベルトを装着していたが、これからは今までの2倍の92.1%がシートベルトを装着すると回答した。ビデオ上映により、シートベルト装着の重要性を理解してもらえた。

6. 飲酒後、自動車やバイクを運転しようとする人を見たら、あなたは止められますか？

低学年では、100%が止められると答えたが、9-12, 13-16歳では、止められない、わからないという回答もあった。子供の頃から飲酒運転を注意する習慣がつけば、将来大人になって本人も飲酒運転は注意する可能性が大きく、とても重要な問題なので、次回は飲酒運転を止められない人達はなぜ止められないのかも調査したい。

今回は、6歳から16歳までをターゲットにしたアンケートを作ったので、簡単に答えられる内容にしたが、年齢層によって文章の理解力が異なり、さらに生活習慣や交通機関の使い方が異なる。

今回は9-12歳のグループが最も熱心にビデオ鑑賞し、アンケートにも答えていた。
次回は、年齢や環境（都市・地方など）によってビデオの内容を変え、各層毎に、交通安全教育の大切さを理解してもらえるようにしたい。

また、ただビデオ上映後アンケート用紙を配布するのではなく、司会者や現地の人たちの協力で、子供たちのビデオへの関心をひきつけながらアンケートを行うことが重要だとわかった。

③ビデオ上映会

年齢層により反響はことなるが、生徒たちは実際の交通事故シーンは特に熱心に見入っていた。ヘルメット着用、携帯電話を使わない、シートベルト装着、飲酒運転を止めるというポイントをアニメーションを使って分かりやすくまとめていたので、低学年の生徒たちにも理解できる内容だった。

ラオス人司会者がとても話が上手で、ビデオ上映後も生徒たちの関心をそらさずアンケートを実施することができた。アンケート実施することにより、ビデオの内容を再確認してもらうことができた。

上映後、学校の教師たちと話し、学校では現在どのような交通安全教育を行っているか聞くことができた。実際に授業で交通安全教育をおこなっているが、まだまだ生徒たちの認知度が低いので、交通安全教育のビデオ上映会を行う事はとても有意義だと教師たちには評価してもらえた。

(3) 得られた教訓など:

ラオスは共産圏で、公共の前でビデオを上映するには、政府からの許可が必要なことが分かった。偶然、早めにビエンチャンを訪問し、情報収集できたが、もしビデオ完成後に初めてビエンチャンに行っていたら、スケジュール内で上映会を開催することはできなかった。インターネットや論文を読むだけでは現場の状況はわからない。今後新しいプロジェクトを行う時には、まず現地に行って情報収集することが重要である。

年齢層によって、ビデオ上映に関する反響がずいぶん異なった。今回のビデオは9-12歳の子供たちの反響が一番大きかった。年齢層によって興味や関心が異なるので、年齢層別に新しくビデオを作った方がいいようだ。

ただビデオを上映するだけでなく、司会者の存在がとても重要だとわかった。今回は、ビデオ内で演技をしたラオス人の役者が司会も担当し、生徒たちの関心を損なわずにスムーズにアンケート実施まで行う事ができた。日本人が一方的に考えて行動するのではなく、現地の優秀な人たちとのネットワークを築くことにより、プロジェクトをスムーズに進行できる。

アンケート結果でもわかるように、バイク通学が多い。ラオスでは、バイクの運転免許は15歳から取得できるが、バイク以外の交通手段がない生徒たちは、先生の許可を得て、15歳以下でもバイク運転で通学している。路面バスやスクールバスなどの公共交通機関の必要性を感じた。

ビデオのシナリオ制作の参考にした Road Safety Status in Lao PDR,2013 (Ministry of Public Works and Transport, Department of Transport)

http://www.unescap.org/sites/default/files/2.3.LaoPDR.pdf

では、携帯電話使用に関しては何の言及もなかったが、生徒たちからは携帯電話使用に関する質問があった。ヘルメットやシートベルトの着用だけでなく、運転時の携帯電話使用に関する教育も重要になってきているようだ。

今回は、ラオスの首都ビエンチャンの子供たちを対象にビデオ上映会を行ったが、都市と地方では、交通状況が大きく異なっている。都市だけでなく、地方を対象にした交通安全教育についても考える必要がある。

(4) 今後の活動・フォローアップ

① 11月29日、JICA LAOS オフィスを訪問し、今回制作した交通安全教育ビデオを今後ラオス国内で上映することを依頼してきた。今後、JICAがラオス国内の子供たちを集めるイベントを行う時に、ビデオ上映会も行うことになった。

② 年齢層別、地域別にターゲットを絞った新しいビデオをいくつか制作する。

③ 交通事故のシーンはどこまで映像として子供たちに見せていいのか、ビエンチャン教育省の担当者や、その他の教育関係者の意見を聞き、ラオスの子供たちにもっと交通安全教育の重要さを理解してもらえるビデオ作りをこころがける。

④ JICA LAOSでは、ラオス国民に納税の重要さなどを教育するビデオを制作するらしい。
今回、教育ビデオはただ上映するだけでなく、司会者がいかにビデオを観る人達をひきつけるかが重要なことがわかった。つまり、ラオスでのビデオ上映は、ビデオだけでなく上映会のスタッフの役割も大きい。今回ラオスで知り合った劇団関係者たちは、自分たちでビデオや映画も作りたいという。彼らと一緒に、ラオス人の視点を重視したビデオを制作できる組織をラオス国内につくり、新しい交通安全教育ビデオを作るシステムを完成させ、将来的には他の教育ビデオも制作できるようにしたい。

3. その他（エピソード、感想、写真など）

（1）活動中のエピソード、感想など

① ビエンチャンの学校でビデオ上映するには、ビエンチャン教育省の認可が必要なことが分かったが、ビデオで役者を演じたTho氏が、ラオス国内でいろいろなパフォーマンス活動を行っていて、彼が中心になってビエンチャン教育省や訪問する学校との交渉を行った。彼を紹介してくださった日本人通訳の虫明悦男さんと知り合えたことが、今回のプロジェクトを実施できたきっかけといえる。

② Tho氏は、日本ラオス合作映画「竜の奇跡」でも重要な役を演じている。ビエンチャン滞在中、映画館で「竜の奇跡」が上映会されていたが観客はほとんどいなかった。Tho氏の意見として、ラオス人ディレクターの意見は全く無視され、日本人の一方的な思い込みで作られた映画だという。ラオス人は喜劇が好きで、もっとユーモアや笑いが入った映画を好むらしい。たとえ、日本側が多く資金を出したとしても、ラオスの人たちの意見をもっと尊重すべきだと感じた。

③ ビデオ制作にあたり、長崎でラオス語を話せる人がなかなかいなかったが、10月から長崎大学大学院熱帯医学グローバルヘルス学科に新しく2名のラオス人が入学することになり、彼女たちの協力でシナリオのラオス語訳やナレーションを完成することができた。

④ Tho氏や長崎大学のラオス人学生など、ラオスの人たちが交通安全教育ビデオの重要性を納得し、積極的な協力を得ることができた。日本人だけでは、今回のプロジェクトを実施することは不可能だった。プロジェクト実施国の優秀な人たちとのネットワークがいかに重要かを実感した。

⑤ JICA ラオスオフィスの方々も上映会の視察に参加し、活動内容に満足してもらえた。ビデオ上映会は、ビデオの内容だけでなく、上映会のスタッフの存在が非常に大きいことが分かった。

⑥ ビデオの内容に日本人イラストレーター、ラジカル鈴木氏のイラストを挿入することにより、Made in Japan らしいスパイスを加味することができてよかった。
いくつかの映像は、LAO National TV やYouTube から許可を得てつかわせていただいたが、交通事故シーンが子供たちには刺激が強すぎるという理由で、他の交通安全教育ビデオを作っているNGOからは使用を拒否されたものもあった。子供たちにどこまで交通事故シーンを見せていいのか、宗教や文化などでも異なってくる。しかし、交通安全教育を普及させるには、交通事故の悲惨さを教えることも重要である。ラオスでは、どこまで実際の交通事故シーンを映像として子供にみせていいのか、機会があれば、ビエンチャン教育省の担当者に質問したい。

(2)活動の写真

① ビデオ撮影

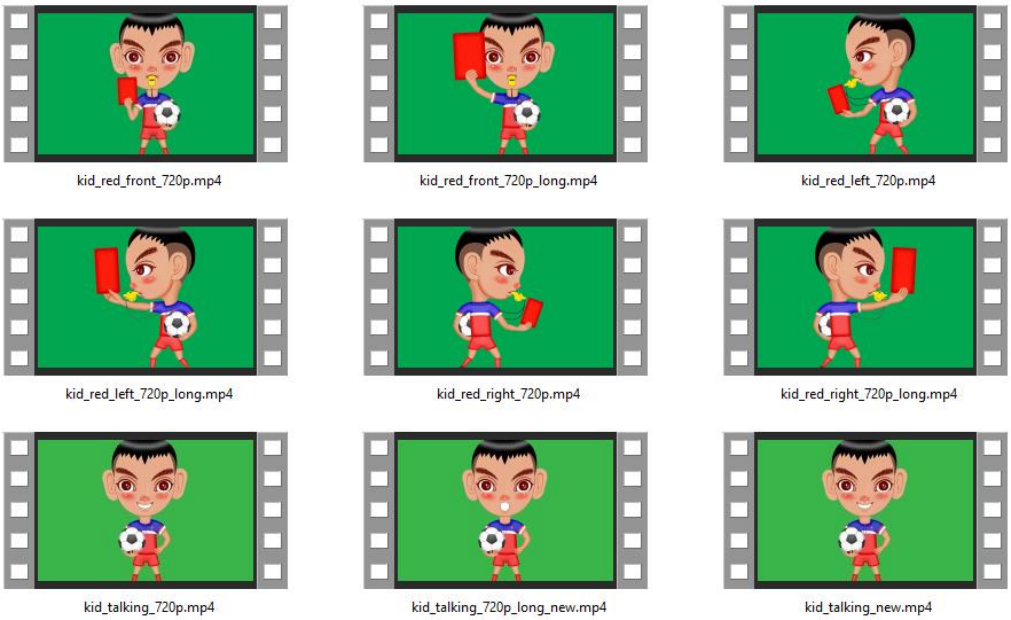
写真左は通訳の虫明さん。右でバイクに乗っているのが、役者のTho氏と息子。

シートベルト着用シーンThoさんと奥さん。

イラストレーターに送るイメージサンプル

ビエンチャン市内の道路の交通状態は トゥクトゥクに乗って撮影した。

②ビデオ制作と編集

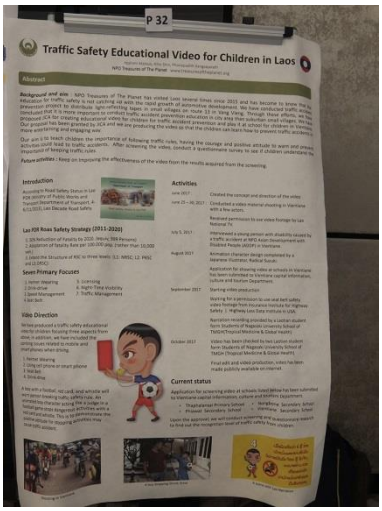


①で撮影したビデオや写真を基にラジカル鈴木氏にサッカーボールを持ちながらホイッスルを鳴らす少年のイラストを描いてもらった。

LAOS National TVや制作者の許可を得てYouTubeからピックアップした交通事故シーンと、①で撮影したビデオ、ラジカル鈴木氏のイラスト、ラオス語テキストとナレーションなど使って、USAのビデオ制作会社Compact Impactに交通安全教育ビデオを制作してもらった。
完成ビデオは下記のアドレス。

https://treasuresoftheplanet.org/lao-traffic-safety-children/

③ 第11回 Nathional Health Research Forum



10月24，25日、ビエンチャンで開催された第11回National Health Research Forum。
ラオス国内の保健関係分野で活動している研究者やNGOなどの活動内容を発表した。

写真右上は、会場に展示したNPO Treasures of The Planetの活動を紹介するポスター。
写真左下は、今回のフォーラムに参加した日本人の方々。写真前列左は、NPOメンバーの森田英太郎。前列中央は、NPO監事の門司和彦長崎大学教授。

Traffic Safety Educational Video for Children in Laos

Yoshimi Matsuo, Kiho Shin, Phonepadith Xangsayarath
NPO Treasures of The Planet www.treasuresoftheplanet.org

Abstract

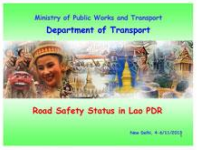
Background and aim *:* NPO Treasures of The Planet has visited Laos several times since 2015 and has become to know that the education for traffic safety is not catching up with the rapid growth of automotive development. We have conducted traffic accident prevention project to distribute light-reflecting tapes in small villages on route 13 in Vang Vieng. Through these efforts, we have concluded that it is more important to conduct traffic accident prevention education in city area than suburban small villages. We have proposed JICA for creating educational video for children for traffic accident prevention and play it at school for children in Vientiane. Our proposal has been granted by JICA and we are producing the video so that the children can learn how to prevent traffic accidents in more entertaining and engaging way.

Our aim is to teach children the importance of following traffic rules, having the courage and positive attitude to warn and prevent activities could lead to traffic accidents. After screening the video, conduct a questionnaire survey to see if children understand the importance of keeping traffic rules.

Future activities : Keep on Improving the effectiveness of the video from the results acquired from the screening.

Introduction

According to Road Safety Status in Lao PDR (Ministry of Public Works and Transport Department of Transport, 4-6/11/2013), Lao Decade Road Safety.



Lao PDR Roas Safety Strategy (2011-2020)

1. 50% Reduction of Fatality by 2020. (equiv, 999 Persons)
2. Adaptation of fatality Rate per 100.000 pop. (rather than 10,000 veh.)
3. Extend the Structure of RSC to three levels: (L1: NRSC; L2: PRSC and L3: DRSC)

Seven Primary Focuses

1. Helmet Wearing
2. Drink-drive
3. Speed Management
4. Seat Belt
5. Licensing
6. Night-Time Visibility
7. Traffic Management

Video Direction

We have produced a traffic safety educational video for children focusing three aspects from above, in addition, we have included the uprising issues related to mobile and smart phones when driving.

1. Helmet Wearing
2. Using cell phone or smart phone
3. Seat Belt
4. Drink-drive

A boy with a football, red card, and whistle will warn person breaking traffic safety rule. An animated boy character acting like a judge in a football game stops dangerous activities with a red card and whistle. This is to demonstrate the positive attitude for stopping activities may cause traffic accident.

Activities

June 2017 :	Created the concept and direction of the video
June 25 – 30, 2017 :	Conducted a video material shooting in Vientiane with a few actors.
	Received permission to use video footage by Lao National TV.
July 5, 2017 :	interviewed a young person with disability caused by a traffic accident at NPO Asian Development with Disabled People (ADDP) in Vientiane.
August 2017	Animation character design completed by a Japanese illustrator, Radical Suzuki.
	Application for showing video at schools in Vientiane has been submitted to Vientiane capital information, culture and tourism Department.
September 2017	Starting video production
	Waiting for a permission to use seat belt safety video footage from Insurance Institute for Highway Safety | Highway Loss Data Institute in USA.
	Narration recording provided by a Laotian student form Students of Nagasaki University School of TMGH(Tropical Medicine & Global Health)
October 2017	Video has been checked by two Laotian student form Students of Nagasaki University School of TMGH (Tropical Medicine & Global Health)
	Final edit and video production, video has been made publicly available on internet.

Current status

Application for screening video at schools listed below has been submitted to Vientiane capital information, culture and tourism Department.

- Thaphalanxai Primary School
- Phiawat Secondary School
- Nongbone Secondary School
- Vientiane Secondary School

Upon the approval, we will conduct screening and questionnaire research to find out the recognition level of traffic safety from children.

Shooting in Vientiane

A boy Stopping Drunk Drive

A scone with Lao Narration

NHRF会場に展示したポスター。

④ビデオ上映会

11月27日13:00 Thaphalanxay Primary School

6歳の生徒30－50名という予定だったが、実際に参加したのは3-8歳の生徒27名。
まだ、文字も書けない子供もいて、どこまで理解できたのかわからないが、交通事故のシーンでは、声を上げる子供もいた。司会のTho氏の話が非常に上手で、ビデオ上映後も子供たちの関心を集め、アンケートでも一人一人丁寧に回答を引き出していた。先生も協力してくれた。

ビエンチャンは、私立と公立の学校があり、公立にはあまり裕福でない子供たちが通っている。小学校は6歳からだが、貧しい家庭の子供たちは3歳からも学校に来ている。

上映後、校長先生に会い、学校ではどのような交通安全教育を行っているか質問した。小学校低学年では、「私たちの身の回り」という授業で、交通安全教育を行っているが、今回のようにビデオで交通安全教育を行うようなことはなく、道路のどちらを歩くかなど、簡単なことを教えるだけらしい。ビデオ上映による交通安全教育はとてもいいと言っていた。

小学校では、学校に携帯電話を持ってくることは禁止されていて、どうしても親との連絡が必要な場合には、先生に連絡が入るようになっているということだった。

④ビデオ上映会

11月28日 14:00 Vientiane Secondary School,
15:00 Vientiane Upper Secondary School

9-12歳　44名、13-16歳　44名の2クラスでビデオ上映会を行った。写真右上は、9-12歳のクラスで、奥で見学しているのは、JICA LAOSオフィスの人たち。写真左下も9-12歳。このクラスが一番熱心にビデオを観ていた。
写真右下は13-16歳クラス。内容が幼稚すぎるのか、ビデオには関心をもたずに勉強をしている生徒も数名いた。全体的に冷めて観ているように感じられた。

上映後、担当の先生に会い、学校ではどのような教育を行っているか質問した。中学年、高学年では法律の授業で交通安全教育を行っている。ヘルメット着用に関しては、学校近くの交番に警察官がいて、厳しく注意し、何度も注意されると罰金を科せられる。

⑤その他

12月4日 ビエンチャン市内のレストランで開催した打ち上げパーティー。

写真中央は、今回ビデオの役者、上映会の司会の他、ビエンチャン教育省や学校に何度も通って上映許可を取得してくれたTho氏。写真右奥は通訳の虫明氏。写真左奥の2名が、NPO Treasures of The Planet の松尾佳美と申基皓。

初めてのプロジェクトにしては、大変よくできたと思う。今後、ビエンチャンだけでなく、ラオス国内の他の都市や地方向けの交通安全教育ビデオを制作し上映会を開催したいとみんなで話ました。